

スポーツ合宿で地域活性化

最後に人口 32,000 人、北海道北東部のオホーツク海に面した網走市の取り組みについて述べる。

1. きっかけはソウル五輪の事前合宿地

網走市では水産業や肥沃な大規模農業が盛んだが、阿寒、知床の両国立公園に隣接した豊富な自然も魅力で、流水に代表される観光業が主力産業のひとつとなっている。そのため市内の宿泊施設の収容能力は充実している。

1988 年ソウルオリンピック開催に伴い、夏季の気候が清涼であること、また、スポーツ施設等のトレーニング環境が充実しているなどの理由から、ボート、女子体操、バドミントン、陸上長距離の 4 種目のオリンピック事前合宿が網走で行われたことを契機に、「網走市スポーツ合宿実行委員会」を立ち上げ、交流人口の増加、地域経済の活性化、地域スポーツの振興を掲げ、スポーツ合宿事業を推進している。

誘致事業開始当初はバブル期と重なっていたこともあり、十分な集客のあった地元のホテル・旅館業者にとってはスポーツ合宿の必要性はあまり認識されていなかった。しかし、観光客の個人行動化や観光地の選別化といった最近の傾向から、大量の集客が困難になる中、数十名の団体が 5～10 泊という長期間にわたって滞在するスポーツ合宿の魅力が相対的に高まり、地元の宿泊施設業者も非常に協力的だという。網走観光のメインが冬場の流水観光に移りつつある中、スポーツ合宿は夏場の需要増大に貢献している。

その後も北京オリンピックの陸上競技選手やラグビーのトップリーグのチーム、そして 2019 年のラグビー・ワールドカップ日本大会の日本代表の事前キャンプ地に指定されるなど各競技のトップレベルの選手の合宿を受け入れてきた実績がある。

尚、スポーツ合宿実行委員会は、網走市体育協会、網走市、網走市教育委員会で構成されており、教育委員会社会教育部スポーツ課が事務局となり、交通・宿泊・トレーニング場所などを手配・案内。合宿希望者からの相談に対応している。

2. 受け入れ体制・合宿地として魅力満載

網走市はスポーツ合宿の受け入れ先進地としての魅力があり、数多くの取り組みを行っている。

① 上質なトレーニング環境の提供

1991 年に開園した網走スポーツ・トレーニングフィールドは、41.4ha の敷地にラグビー、サッカー場など 7 面、テニスコート 16 面、野球場、多目的屋内ドームなどを備えている。

天然芝の管理は組合組織が行い、維持費は年間約 2,000 万円。ラグビー日本代表からは「日本一の芝」との評価を受けている。

また、全天候型舗装の網走市営陸上競技場は日本オリンピック委員会認定の競技別強化センター（長距離・競歩）に指定されており、夏季には国内トップ選手も参加する大会が行われている。

■ 網走スポーツ・トレーニングフィールド



出所：網走市役所 HP

②移動に関する送迎手配・経費負担

北海道外からのスポーツ合宿参加者に対して、最寄りの女満別空港と宿泊施設間の送迎の手配及び経費負担、宿泊施設と練習場間の送迎の手配及び経費負担を行っている。

③練習施設使用料の経費負担

スポーツ・トレーニングフィールド、市営陸上競技場、総合体育館、市民健康プールなどのスポーツ施設使用料の負担を行っている。

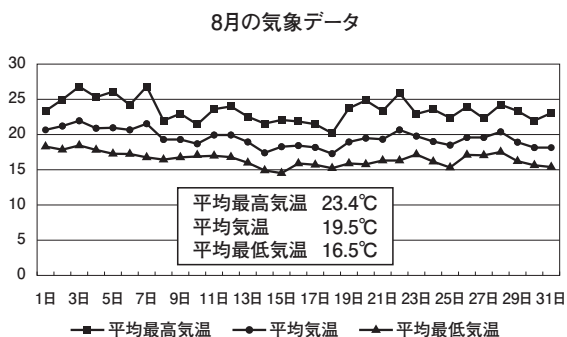
④宿泊施設のホスピタリティと創意工夫

宿泊施設側でも食事面で栄養への配慮や選手たちが市内に出向く際の案内の充実など、合宿チームの参加者が快適に合宿期間を過ごせるような創意工夫を試行錯誤しながら積み重ねてきている。

⑤夏季の日照時間の長さ、清涼な気候

国内では近年の夏季の猛暑期間は、激しい運動は原則禁止となる地域が多く、スポーツ活動への影響が大きい。網走市は清涼な気候のため、合宿地に適している。また、近隣には温泉もあり、疲れた体を癒すことができる。

■図表 網走市の気象データ



出所：網走市役所 HP

3. 経済効果はもちろん、市民への還元も

2023年度の網走市におけるスポーツ合宿の実績は、51団体、844名の来訪となっており、24年度は増加が見込まれている。但し、コロナ前の数字には届いていない。これにはラグビーチームの受け入れがコロナ禍で途絶えてしまったこと、社会人ラグビーのシーズンが変更になったことが影響している。今後は大学チームの勧誘活動に注力しつつ、陸上競技など他の競技チームの受け入れも積極的に行っていく構えである。

網走市では現在の経済効果を、宿泊施設の利用や飲食業をはじめとする小売業への波及を中心に、年間約5億円と試算している。

また、非経済効果も生まれている。網走市が「トップアスリートが集う国内有数のキャンプ地」という認知が広まるにつれ、以前の「刑務所のあるまち」のイメージが薄れ、イメージアップにつながっている。

加えて、市民がトップアスリートの練習を身近に見る機会が増えたため、スポーツに対する関心が高まり、地域のスポーツ文化の発展が促進されている。さらに子どもたちが選手と交流することで、スポーツに対するモチベーションが向上し、健康的な生活習慣の形成に寄与しており、既にラグビーの社会人リーグ優勝チームによる少年団へのクリニックが行われたり、女子プロサッカーリーグのチームによる小中学生向けスクールも開催されている。本来、地域住民の健康増進を指命とする教育委員会が合宿誘致を担当するには、こうした地元住民への還元を目的とする交流事業が必要であり、非常に重視している。

今後は周辺自治体との連携も強化しながら“オホーツク連合”として、スケールメリットを活かした対応を行っていく方針である。